

ニンク上海種の植付期、収穫期と球重、裂球程度の関係

岩 坪 友三郎・小 川 勉

(長崎県総合農林試験場)

肥大性の良い上海種は5月中旬には裂球をおこし商品価値を落とすため、選種による裂球防止、上海種の早生性を利用したマルチ栽培による生育期間短縮の2点について検討するため試験を行った。

1. 試験方法

試験1は昭和52年、試験2は昭和53年に行った。植付期、収穫期、植付深度など試験項目は表に示す通りである。試験2は全区マルチ栽培とした。試験1、2ともに施肥その他は一般栽培慣行に従った。

2. 試験結果及び考察

本試験では植付深度と裂球程度の間には全区を通してみると一定の関係は認められなかった。

第1表は植付深度0, 2, 4 cmをまとめて肥大と裂球の関係をみたものである。5月11日収穫まではほとんど裂球はなく、10月中旬の植付でも一球40g以上のL級品が生産された。裂球程度については、裸地の10月中下旬植付で早期収穫の深植えのものに裂球が少ない傾向がみ

られた。

植付期、収穫期と裂球の関係は第2表に示すように、10月5日植付では5月11日の早期収穫でも、また10月中旬の植付では5月下旬の収穫で裂球程度が問題となるが、10月26日植付の区は他区と同じくらいの球重を確保しながら、5月下旬の収穫まで裂球程度はごくわずかで問題とならない。

10月26日植付5月21日収穫の場合、裂球率も2割以下に抑えられ、実用的にはこれで充分であるが、10月26日植付5月11日収穫の作期が安全と思われる。

3. 総 括

上海種の欠点である裂球を防止し、経済的に有利な球重を確保できる作期としては、10月下旬植付で5月10日頃までに収穫すれば、裂球程度、裂球率とも低く抑える事ができ有望である。球重も一球50g以上で、裂球がなくて商品性も高く、栽培期間が短縮され水田裏作にも充分導入できるものと思われる。

第1表 試験1の収穫調査

マルチ	項目		平均一球重(g)*				裂球程度**			
	植付期	収穫期	5.11	5.16	5.21	5.26	5.11	5.16	5.21	5.26
無	10.11		31	38	41	37	0	1.0	0.7	0.7
	16		36	40	40	46	0.7	1.0	0.7	1.7
	21		29	34	41	38	0	0.7	0.7	0.7
	26		32	39	44	39	0.3	1.0	0.7	0.7
有	10.11		45	54	46	65	1.0	1.0	1.0	1.0
	16		45	55	56	62	0.3	1.3	1.7	1.7
	21		33	66	65	49	0.3	1.0	1.7	1.7
	26		39	49	69	48	1.0	1.7	2.0	0.7

注) * 植付深度0, 2, 4 cmの平均
 ** 裂球程度 (1, 2表共通)
 0 ; 完全球
 1 ; わずかに裂開
 2 ; 中位
 3 ; 甚

第2表 試験2の収穫調査

植付期	深度	項目		平均一球重(g)				裂球程度**				裂球率(%)			
		植付期	収穫期	5.11	5.16	5.21	5.25	5.11	5.16	5.21	5.25	5.11	5.16	5.21	5.25
10. 5	2 cm			45	62	53	87	0.7	1.0	1.5	2.5	45	50	63	100
	3			58	60	43	47	1.0	0.8	1.3	1.5	63	38	43	83
	4			47	49	47	63	1.7	0.3	1.7	1.2	57	29	71	83
10. 12	2			51	63	57	56	0.7	0.9	1.0	1.1	38	50	46	59
	3			57	58	51	61	0.7	0.8	0.7	0.8	26	54	46	48
	4			51	56	62	62	0.5	0.5	0.9	1.0	42	32	52	54
10. 19	2			51	59	65	82	0.3	0.6	1.0	0.9	24	32	46	56
	3			53	49	68	69	0.2	0.8	0.9	0.5	19	36	42	29
	4			54	60	44	71	0.3	0.6	0.8	0.9	31	26	38	45
10. 26	2			50	66	39	67	0	0.6	0.3	0.6	4	33	11	44
	3			50	52	45	44	0	0.2	0.5	0.4	0	16	17	31
	4			53	58	47	57	0	0.3	0.2	0.2	0	18	9	21